

第4学年2組 社会科学習指導案

平成24年2月10日（金）
公開授業 I 2階-④教室
授業者 教諭 大矢 和憲

1 単元名 「未来への架け橋」－新潟のシンボル萬代橋と人々の願い－

2 本単元の価値

本単元は、学習指導要領3学年及び4学年の内容(5)イ、ウに準拠して設定したものである。

(5) 地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。

イ 地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事

ウ 地域の発展に尽くした先人の具体的事例

(内容の取扱い)

(6) 内容の(5)のウの「具体的事例」については、開発、教育、文化、産業などの地域の発展に尽くした先人の中から選択して取り上げるものとする。

そのうち、「地域を開発し、発展に尽くした先人の事例」についての学習が本単元である。本単元の目標は次のとおりである。

萬代橋の歴史と新潟市の発展について調べることを通して、萬代橋が新潟市の発展と人々の生活の向上に大きくかかわっていることや、萬代橋を架けた先人の願いと、萬代橋の保存に取り組んでいる人々の努力や願いが分かり、萬代橋と新潟市への誇りと愛情や、新潟市の未来を考える気持ちをもつことができるようにする。

本単元では、地域の発展に尽くした先人の具体的事例として、初代萬代橋を架けるために尽力した内山信太郎と、私財を投じた八木朋直を取り上げる。また、現在の萬代橋が、市民の努力と願いによって国の重要文化財に指定され、現在も保存のために市民が活動していることを取り上げる。

萬代橋は、言わずと知れた新潟のシンボルである。ライフラインとしての働きをもち、市民の生活を支えるとともに、その景観と歴史から、市民に大変親しまれている。平成16年には、多くの市民の協力と願いが叶い、国の重要文化財にも指定され、全国的にもその名を馳せるようになった。現在の橋は三代目であり、美しい景観が先行しがちだが、現在の新潟市の発展は、萬代橋の歴史を無くして語ることはできないのである。

明治初期まで、信濃川下流には橋がなかった。信濃川下流の川幅は現在の2倍以上もあり、古町側の新潟町と、新潟駅側の沼垂町とは分断されていた。大河を渡るには渡し舟しかなく、季節・天候によって欠航や事故が起こっていたため、信濃川に橋を架けることは当時の人々の悲願だったのである。内山信太郎が県へ橋を架ける願いを提出し、八木朋直が私財を投じて橋の建設が進められ、明治19年に初代の萬代橋が完成した。このとき、橋の名前は「萬代（よろずよ）橋」と呼ばれ、「よろずよまでも（いつまでも）新潟の町の発展に尽くすように」という願いが込められていたのである。つまり、これらの先人は未来の新潟の発展を願い、そこに橋を架けたのである。萬代橋が架けられてから、まさに先人が願ったとおり新潟市は発展し、現在に至る。二代目の橋も三代目になる現在の橋も、場所が変わることなく新潟市を結び、新潟の人々の生活を支え向上させてきた。そして、初代萬代橋を架けた先人の願いは、現在の人々に受け継がれ、なおも生き続けているのである。

このように、地域の未来を願って萬代橋を架けた二人の先人と、現在萬代橋の保存に取り組んでいる人々とを取り上げて学習することは、新潟市に暮らす子どもにとって、地域への誇りと愛情を育むことができ、さらに、地域社会の一員として、地域の未来を考える素地を培うことができると考える。

子どもは普段から、登下校や塾通い、買い物などで萬代橋を渡っており、自分の生活とのかかわりを具体的に感じることができる教材である。また、萬代橋は現在もなお、人々の生活の向上や地域の活性化のために、行政や市民による保存のための工夫や努力がされており、現在進行形で地域の未来を担っている教材でもある。このような教材の価値を活かし、歴史や先人の業績を学ぶことに止まらず、現在の自分たちの生活と先人の願いとを関係付けてとらえたり、先人や保存に取り組む人々のように、地域の未来について考えたりすることができる単元である。

3 本単元で目指す姿及び思考の方法

本単元では、**内山信太郎と八木朋直（以下：先人）が萬代橋を架けたことを、自分のこととしてとらえる子ども**を目指す。現在の自分の生活が便利で豊かであることが、先人の願いと働きによるものだととらえるのである。このように先人の願いや働きをとらえた子どもは、地域社会に対する誇りと愛情をもつことができるとともに、地域の未来の発展を願って行動した先人に共感し、自分も地域の未来に貢献しようとする気持ちをもつことができると考える。

そこで、本単元では、まず、現在の萬代橋と自分の生活とのかかわりを考えさせたり、現在の萬代橋の働きや価値を調べさせたりして、萬代橋が自分や新潟の人々の生活を支えていることや、市民から愛されていることをとらえさせる。その後、萬代橋が架かる前と、架かった後の新潟の様子を調べさせたり、先人が萬代橋を架けた理由を考えさせたりすることで、先人がその当時の人々の生活の向上だけでなく、未来の自分たちの生活の向上と新潟の発展を願って萬代橋を架けたということをとらえることができるようにする。そのために大切にしたい思考の方法は、**立場を変える思考の方法**と、**関係付ける思考の方法**である。先人が萬代橋を架けた理由を考える場面で、多くの子どもは、当時の人々の立場で、当時の人々の生活の向上のためと考えるであろう。これでは、現在の自分の生活と結び付けてとらえることができない。この場面でこそ、立場を変える思考の方法を使って、現在の自分の生活や新潟の発展をもち出すことができるようにする。また、萬代橋を架けた理由を明らかにする場面では、子どもが、関係付ける思考の方法を使って、現在の自分の生活や新潟の発展と、萬代橋という名前に込められた先人の願いとを結び付け、萬代橋は、未来の自分たちの生活の向上と新潟の発展を願って架けられた橋だと、先人が萬代橋を架けたことを、自分のこととしてとらえることができるようにする。

また、学習を進めるにあたって、特に必要となる学級力は、「創造的対話力」の「話をつなげる」、「新たな考えをつくる」である。気付いたことを発表する場面や、考えを交流させる場面で、友達の考えに付け足したり、友達の考えとの相違点を挙げて話したりと、「話すスキル」、「聞くスキル」を發揮している姿を賞賛していく。

4 指導の構想

子どもは、これまでの学習で、現在の萬代橋について調べ、萬代橋が、自分や市民の生活を支えていたり、市民から愛されていたりして、新潟のシンボルになっているととらえている。また、萬代橋が無かった頃の新潟の様子や人々の暮らしについて調べ、当時の人々が橋が架かることを願っていたことや、多くの人たちが橋を架ける計画を新潟県に提出していたことと、内山信太郎が、明治16年に新潟県から橋を架けることを許可されたことを知っている。子どもは、当時の人々の願いがかなって萬代橋が架けられたととらえている。そのような子どもに、次の働き掛けを行う。

働き掛け1

初代萬代橋を架けるのにかけた費用と、八木朋直が一度は断ったけれども、私財を出資して萬代橋を架けることに協力したという事実を提示し、疑問を焦点化して、学習問題を設定させる。

まず、子どもに、初代萬代橋の絵や当時日本一の長さだった事実、橋を架けるのに掛かった費用を提示する。初代萬代橋建設にかかった費用は、現在の価値にして約37億円程度と考えられている。子どもは、初代萬代橋を架けるために巨額の費用がかかったことに驚く。このとき、子どもは既習から、橋の建設は国や県が行ったと考えている。このような子どもに、「内山信太郎が、初代萬代橋を架ける費用を出してほしいと八木朋直に協力を頼み、八木朋直は、一度は断ったけれどもその費用を自分が出して協力することを決め、初代萬代橋（よろずよばし）が架けられた」という事実を提示する。子どもは、橋を架ける巨額の費用を一人の人が出したことや、萬代橋の名前が現在と違うことに驚き、様々な疑問を感じる。そこで、どのようなことを学習問題にしたらいかがを問い、「たくさんお金がかかるのに、なんで八木朋直は自分のお金を出して協力しようと思ったのだろうか」という学習問題を設定させる。このとき、子どもは、「当時の人々が川を渡りやすくするためではないか」、「地域の人々の願いを叶えるためではないか」、「他にお金を出せる人がいなかったからではないか」などと、既習を基に、当時の人々の立場でその理由を考え始める。

働き掛け2

初代萬代橋完成後の通行量や新潟市の歴史年表（初代萬代橋編）を提示し、八木朋直が私財を出資して萬代橋を架けることに協力した理由を問う。

当時の人々の立場で、八木朋直が出資した理由を考え始めている子どもに、初代萬代橋完成後の

通行量や新潟市の歴史年表（初代萬代橋編）を提示し、八木朋直が私財を出資して萬代橋を架けることに協力した理由を問う。萬代橋は完成後しばらく有料橋であったため、橋を渡る人はそう多くはなかった。子どもは、この事実から、「なんで萬代橋を架けたのだろう」と、問いを深め、推量する思考の方法を使って、萬代橋ができたことによる効果をもち出して学習問題について考え始める。そこで、初代萬代橋にかかわる新潟市の歴史年表を提示する。子どもは年表から、萬代橋ができてから、人やものの行き来が増えたり、火事の消火に協力できたりしたことなどを読み取り、**関係付ける思考の方法**を使って、初代萬代橋完成前後の人々の様子や新潟市の様子を基に、先人が新潟市の人々の生活をよくしようと思っ、私財を投じたのではないかと考えるようになる。しかし、このとき子どもは、当時の人々の生活の様子や新潟市の様子を基に考えているため、人々について、当時（昔）の人々や新潟の人々というような考え方をしており、自分の立場で現在の自分の生活と先人の願いとを結び付けて考えていない。

働き掛け3

現在までの萬代橋と新潟市の歴史年表と、現在の萬代橋と子どもの生活経験をまとめた資料を提示し、学習問題に対する考えを交流させ、仮説を立てさせる。

まだ、自分の立場で自分の生活が便利で豊かになったとは考えていない子どもに、現在までの萬代橋と新潟市の歴史年表と、単元の始めに作成した、現在の萬代橋と子どもの生活経験をまとめた資料を提示する。子どもは年表から、萬代橋ができたことで、新潟市が現在のように発展したことや、人々の生活が便利で豊かになったことを読み取る。また、日頃自分たちが萬代橋を渡って登下校していることや、塾や買い物に行くときに渡っていることなど、自分の生活経験から、萬代橋ができたことで現在の自分の生活があると考えようになる。そこで、学習問題についてどのように考えるかを問い、学級全体で学習問題に対する考えを交流させ、仮説を立てさせる。子どもは、**立場を変える思考の方法**を使って、現在の自分の生活や、萬代橋完成後の新潟の発展をもち出し、「八木朋直は、未来の新潟市の人々の生活が便利で豊かになることを考えて、萬代橋を架ける費用を出すことにしたのではないかと、仮説を考える。こうして、子どもは、自分の立場で萬代橋が架けられたことによって、現在の自分の生活があることに気づき、先人の願いが未来に向けられていたと考えることができるようになる。

働き掛け4

萬代橋についてよく知るゲストティーチャーに出会わせ、分かったことを問う。

八木朋直が初代萬代橋を架ける費用を出した理由について考えた子どもに、萬代橋についてよく知っている、萬代橋ファン倶楽部の保坂さんを紹介し、萬代橋の名前の由来や、保坂さんから見た八木朋直の人物像、保坂さんの萬代橋にかける思いについて話をしてもらおう。そして、話を聞いて分かったことを問う。このとき、子どもは、**関係付ける思考の方法**を使って、現在の自分たちの生活と、萬代橋という名前に込められた先人の願いとを結び付け、**萬代橋は、未来の自分たちの生活の向上と新潟の発展を願って架けられた橋だと**、先人が萬代橋を架けたことを、自分のこととしてとらえるようになる。

5 指導計画 全14時間(42Q) ※単元カード参照

第1次 現在の萬代橋について調べよう（5時間：15Q）

- ・現在の萬代橋と自分たちの生活とのかかわりを地図にまとめる。
- ・現在の萬代橋の働きや価値、重要文化財になった経緯について調べる。
- ・萬代橋周辺の現地調査を行う。

第2次 萬代橋と新潟市の歴史を調べよう（5時間：15Q）

- ・萬代橋が無かった頃の新潟の地図と、現在の地図とを比べる。
- ・萬代橋が無かった頃の新潟の人々の暮らしについて調べる。
- ・初代萬代橋を架けた先人の願いを考える。（本時）
- ・萬代橋と新潟市の発展の歴史について調べる。

第3次 萬代橋と新潟市の未来を考えよう（4時間：12Q）

- ・現在市民が行っている萬代橋の保存活動について調べる。
- ・萬代橋で活動している人の話を聞き、目的や願いを知る。
- ・「新潟市の未来を考えよう」をテーマにポスターセッションを行う。

1 日目

6 本時の構想 8/14時間 (3Q=45分間授業)

(1) ねらい

当時の人々のくらしや、萬代橋建設後の新潟の発展と人々のくらしの変化などから、八木朋直が私財を出資して萬代橋を架けることに協力した理由（願い）を考察することができる。

(2) 展開

学習活動と子どもの姿 * 思考の方法	教師の働き掛け
<p>1 初代萬代橋を架けるのにかかった費用と、八木朋直が一度は断ったけれども、私財を出資して萬代橋を架けることに協力したという事実を知り、学習問題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんで名前が「よろずよばし」なんだろう。 ・37億円もかかったなんてすごい。 ・そのお金はどうしたんだろう。 ・国や県が出したのかな。 ・自分のお金を出したなんてすごい。 ・なんでそんなにお金があったのだろう。 ・なんで一度断ったのに、お金を出すことにしたんだろう。 ・たくさんのお金がかかるのに、なんで八木朋直は自分のお金を出して協力したのだろうか。 <p>【学習問題】 たくさんお金がかかるのに、なんで八木朋直は自分のお金を出して協力したのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・舟で川を渡るのが危険だったから、地域の人々がいつでも安全に川を渡れるようにするためではないだろうか。 ・地域の人々のためになることをしたかったからではないだろうか。 ・たくさんのお金がかかるのに、なんで八木朋直は自分のお金を出して協力したのだろうか。 	<p>【働き掛け1】</p> <p>〈資料提示〉初代萬代橋の絵、長さ（日本一）、架けるのにかかった費用</p> <p>※パワーポイントでテレビに提示する。</p> <p>○説明「明治19年に初代萬代（よろずよ）橋が架けられました。782mの木の橋で、当時日本一の長さでした。初代萬代橋を架けるのにかかったお金は、現在のお金の価値にすると、約37億円だったそうです。」</p> <p>○説明「内山信太郎が、初代萬代橋を架ける費用を出してほしいと八木朋直に協力を頼み、八木朋直は、一度は断ったけれどもその費用を自分が出して協力することを決め、初代萬代橋（よろずよばし）が架けられました。」</p> <p>○発問「気になることや疑問に思うことはありますか。」</p> <p>○発問「みんなの疑問をまとめると、どのような学習問題がつけられそうですか。」</p> <p>○指示「自分の考えをワークシートに書きましよう。」</p> <p>○指示「考えを発表しよう。」</p>
<p>2 初代萬代橋建設後の人々の様子や新潟市の様子を基に、八木朋直が私財を出資して萬代橋を架けることに協力した理由を考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えー。うそだ。何でだろう。 ・お金を取っていたんだ。・1回千五百円って高い。 ・萬代橋を架けた意味がないじゃないか。 ・お金儲けするために橋をかけたのだろうか。 ・37億円もかかったんだから仕方ないと思う。 ・お金を取ったのは橋の修理などのためだから、儲けようと思っていたのではないと思う。 ・儲からないから違うと思う。 <p>*ここで、儲けようと思っていたと考えるのではなく、他の理由を考察する姿が見られたら、推量する思考の方法を使っていると判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・橋を架けることで、人やものが行き来しやすくなるようにしたかったのだと思う。 ・新潟駅ができて人やものがたくさん運ばれるようになった。（萬代橋の通行量が増えた。） ・橋を県が買って無料で渡れるようになった。 ・新潟市と沼垂町の人やものの行き来がとて増えた。 ・萬代橋があったから新潟の消防ポンプが沼垂の火事の消火に協力できた。 ・萬代橋ができたことで人やものの行き来が増えたり、火事の消火に協力できたりしたから、八木朋直は新潟市の人々の生活をよくしようと思って、自分のお金を出して萬代橋を架けることに協力したのではないだろうか。 	<p>【働き掛け2】</p> <p>〈資料提示〉当時の萬代橋の通行量の資料</p> <p>○説明「当時萬代橋は有料の橋で、今のお金の価値にすると、1回渡るのに約千五百円くらいかかったそうです。」</p> <p>○説明「萬代橋ができて、どれくらいの人が橋を通ったかという、1日平均で200人くらいだったそうです。」</p> <p>※事実を伝える資料を配付する。</p> <p>○発問「八木朋直は、儲けるために協力したのでしょうか。」</p> <p>○説明「みんなは儲けるためじゃないと考えるのですね。」</p> <p>〈資料提示〉新潟市の歴史年表①（初代編）</p> <p>○指示「初代萬代橋ができてからの新潟市の様子を年表で調べてみましょう。」</p> <p>※年表を配付し、調べる時間を確保する。 留意点：大切だと思うところに線を引かせ</p> <p>○発問「儲からないのに、なんで八木朋直は自分のお金を出して協力したのでしょうか。」</p> <p>○指示「自分の考えをワークシートに書きましよう。」</p> <p>*ここで、人々の様子や新潟市の様子の変化をもち出し、八木朋直が協力した理由を考察している記述が見られたら、関係付ける思考の方法を使っていると判断する。</p>

(3) 評価

○ 萬代橋完成後の人々の様子や新潟市の様子をとらえ、八木朋直が私財を出資して萬代橋を架けることに協力した理由を考察することができる。

2 日目

6 本時の構想 9/14時間 (3Q=45分間授業)

(1) ねらい

萬代橋がかけられたことによって、現在の新潟市や自分の生活があることに気付き、先人が未来の自分たちの生活や新潟の発展を願って萬代橋を架けたことが分かる。

(2) 展開

学習活動と子どもの姿 * 思考の方法	教師の働き掛け
<p>※1日目からの続き</p> <p>3 現在までの新潟市の発展や、自分の生活を基に、先人が萬代橋を架けた理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えーっ！？せっかく造ったのに。 ・みんなが困ってしまうよ。 ・じゃあ、この後どうなったんだろう。 ・ぼくは、すごい人たちだと思います。理由は、萬代橋ができてから、新潟市が合併したり、タクシーやバスが通ったりして、新潟市が発展したからです。 ・わたしも、すごい人たちだと思います。理由は、萬代橋を造ってくれたおかげで、多くの人が行き来できるようになって、人口も増えたからです。 ・ぼくは「ありがたいな」と思います。理由は、ぼくたちが今こうして便利に生活できたり、学校に通えたりするのも、萬代橋があるおかげだからです。 ・今ぼくたちがこうして生活できるのも、新潟市が今のように発展したのも萬代橋があるおかげだから、八木朋直は、新潟市の未来を考えて、お金を出して協力したのだと思う。 ・八木朋直は、未来の新潟市の発展や人々の生活が便利になることを願って、萬代橋を架けるお金を出して協力したのだと思う。 <p>*ここで、現在の自分の生活や新潟市の発展をもち出して、八木朋直が出資して協力した理由や、萬代橋にかけた願いを考えている発言が見られたら立場を変える思考の方法を使っていると判断する。</p>	<p>※前時の学習と学習問題を確認する。</p> <p>【働き掛け3】</p> <p>○説明「昨日は初代萬代橋ができてからの新潟市の様子を年表で調べましたね。実はこの後、大変なことが起きてしまいました。」「なんと！初代萬代橋が大火事で焼け落ちてしまったのです！」</p> <p>※パワーポイントでテレビに提示する。</p> <p>○指示「この後萬代橋は、新潟市はどうなってしまったのか。現在までの新潟市の様子を調べてみましょう。」</p> <p>〈資料提示〉新潟市の歴史年表②・子どもの生活経験をまとめた資料</p> <p>○発問「みんなは、内山信太郎や八木朋直のことをどう思いますか。」</p> <p>○説明「みんなは、たくさんお金がかかるのに、なんで八木朋直は自分のお金を出して協力したのだろうかということを考えてきましたね。」</p> <p>○発問「これまで考えてきたことをまとめるのと、学習問題についてどのように考えられますか。考えを発表しましょう。」</p>
<p>4 ゲストティーチャーの話を聞き、分かったことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・萬代橋は「よろずよばし」という名前で、どの時代までも新潟の発展と人々の生活に役立つ橋になってほしいという願いが込められていたことが分かりました。 ・八木朋直が渡り初めに詠んだ歌から、やっぱり八木朋直は、新潟の人々の未来を考えていたということが分かりました。 ・保坂さんは萬代橋を尊敬していて、これから大切にしていきたいと考えていることが分かりました。 ・内山信太郎と八木朋直は、新潟の未来を考えて萬代橋を造ったということが分かりました。そして、萬代橋を架けてくれたから、今わたしたちが便利に生活できています。わたしも内山信太郎や八木朋直や保坂さんのように、ずっといつまでも萬代橋を大切にしたいと思いました。 <p>*ここで、現在の自分たちの生活と、萬代橋という名前に込められた八木朋直の願いとを結び付けた記述が見られたら、関係付ける思考の方法を使っていると判断する。</p>	<p>【働き掛け4】</p> <p>○説明「みんなはこのように考えるのですね。実際、八木朋直はどんなことを考えていたのでしょうか。」</p> <p>○説明「実は今日、萬代橋のことをとてもよく知っている人が来てくださっています。」「紹介します。萬代橋ファン倶楽部の保坂さんです。」「保坂さんの話を聞いてみましょう。」</p> <p>※ゲストティーチャー（保坂さん）登場</p> <p>留意点：保坂さんには、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①萬代橋の名前の由来や、八木朋直が詠んだ川柳、八木朋直の人物像 ②萬代橋と新潟の発展 ③保坂さんの萬代橋に対する思いについて話をしてもらう。 <p>○発問「保坂さんの話を聞いてどんなことが分かりましたか。発表しましょう。」</p> <p>○指示「最後に、ワークシートに学習のまとめを書きましょう。」</p>

(3) 評価

○先人は、未来の自分たちを含めた新潟の人々の生活の向上と新潟の発展を願って萬代橋をかけたということが分かる。